

教育分野における 男女共同参画の取組について



文部科学省 総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課長
安里 賀奈子



文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

本日、お話しすること

- 1 教育分野(特に理工系)における男女共同参画の現状
- 2 男女共同参画に関する政府の方針
- 3 文部科学省の取組
- 4 大学の取組例
- 5 まとめとお願い



1. 小中高生の好きな教科・嫌いな教科

- ・算数／数学は、男女ともに好きな教科、嫌いな教科のいずれも上位。（やや男子の方が算数／数学好き）
- ・理科は、進学するにつれて、男子は好きな教科と回答する割合が上がり、女子は嫌いな教科と回答する割合が上がる。

小学生

		男		女	
順位					
好きな教科	1	算数	26.5%	図工	19.7%
	2	体育	23.2%	国語	16.0%
	3	図画工作	12.7%	算数	13.5%
	4	国語	7.8%	体育	12.3%
	5	理科	7.7%	音楽	8.8%
				(理科)	6.0%
嫌いな教科	1	国語	26.8%	算数	32.0%
	2	算数	17.2%	国語	12.0%
	3	体育	5.3%	体育	10.0%
	4	図工	5.2%	社会	5.8%
	5	音楽	3.8%	理科	3.5%

中学生

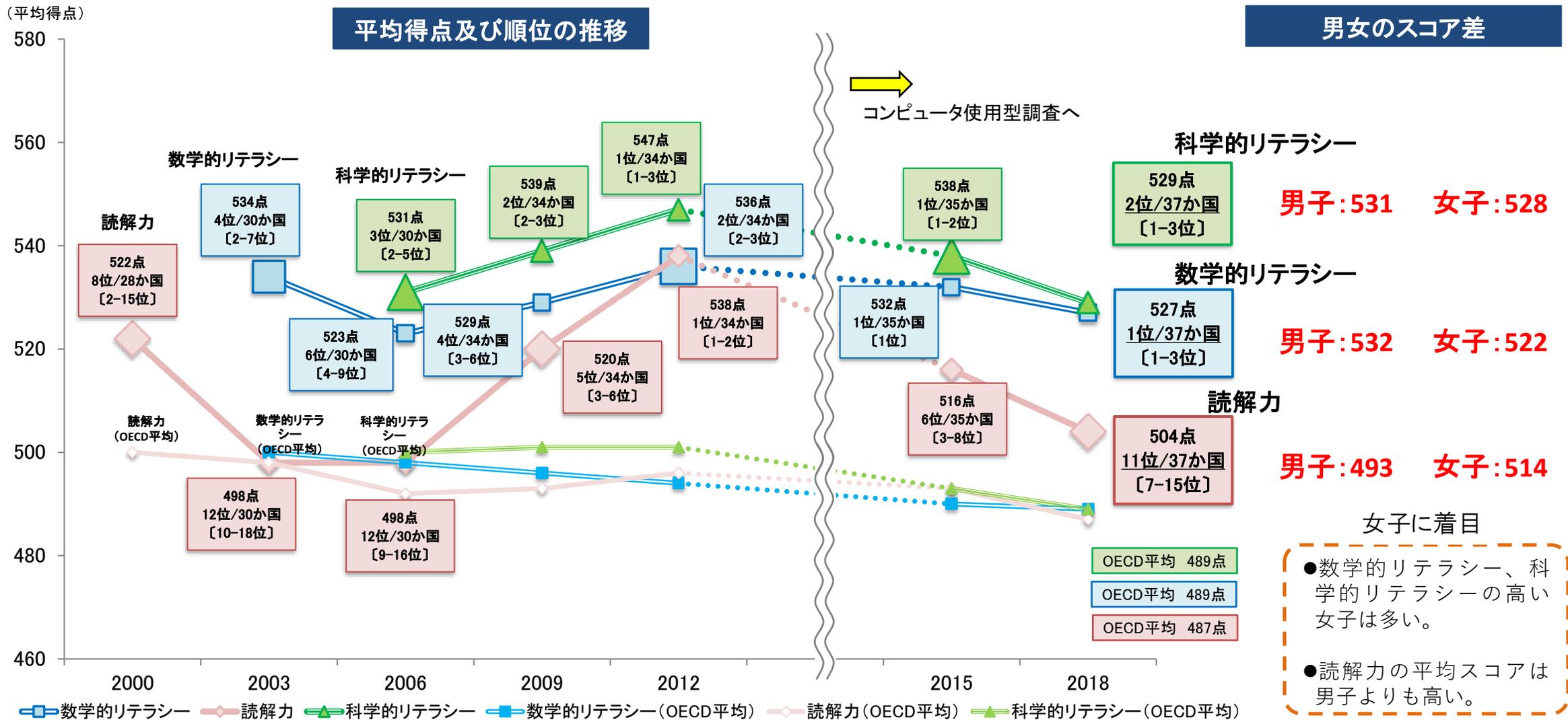
		男		女	
順位					
好きな教科	1	数学	31.3%	国語	17.0%
	2	社会	14.0%	英語	16.7%
	3	英語	12.3%	数学	14.0%
	4	理科	9.3%	社会	10.0%
	5	保健体育	9.0%	音楽	8.0%
				(理科)	7.0%
嫌いな教科	1	国語	22.3%	数学	32.7%
	2	英語	18.7%	社会	13.7%
	3	数学	16.3%	英語	9.7%
	4	美術	8.0%	理科	8.3%
	5	理科	7.0%	保健体育	8.0%

高校生

		男		女	
順位					
好きな教科	1	数学	18.0%	数学	14.3%
	2	地理歴史	16.3%	外国語	13.7%
	3	理科	11.3%	保健体育	10.7%
	4	外国語	8.7%	国語	9.3%
	5	保健体育	7.7%	地理歴史・芸術	8.0%
				(理科)	6.3%
嫌いな教科	1	数学	19.0%	数学	25.7%
	2	国語	17.0%	外国語	17.7%
	3	外国語	16.0%	理科	9.3%
	4	地理歴史	7.0%	地理歴史	8.0%
	5	保健体育	7.3%	保健体育	7.3%

2. 義務教育終了段階の数学的・科学的リテラシー

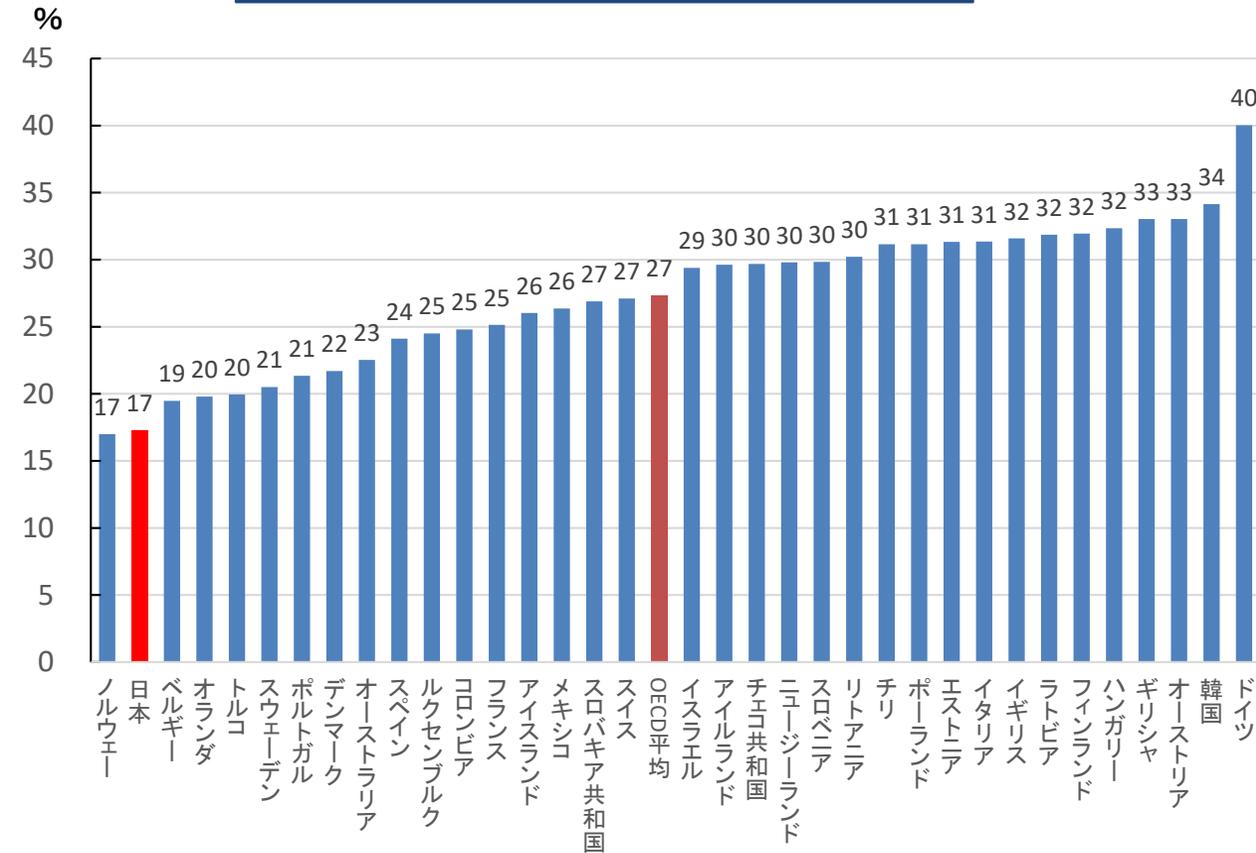
- ・義務教育終了段階の国際学力調査で「科学的リテラシー」「数学的リテラシー」は安定的に世界トップレベルを維持。
- ・女子生徒のスコア(科学的リテラシー・数学的リテラシー)はG7トップで、男女のスコア差も小さい。



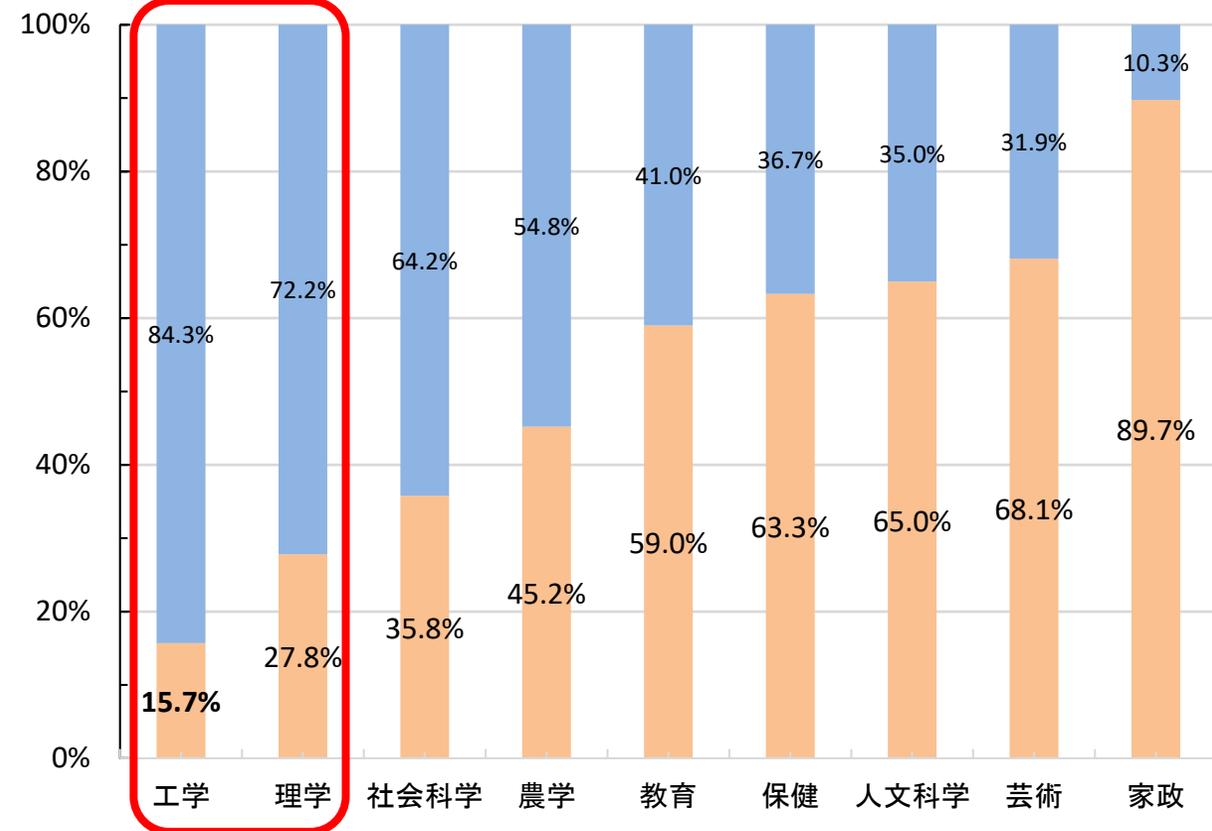
3. 学部入学定員に占める理工系女子学生の割合

・日本は、学部入学者に占めるSTEM分野の学生の割合は低く、更に理工系学科の女性学性割合が低い。

学部入学者に占めるSTEM分野の学生の割合



学科別女子学生の割合



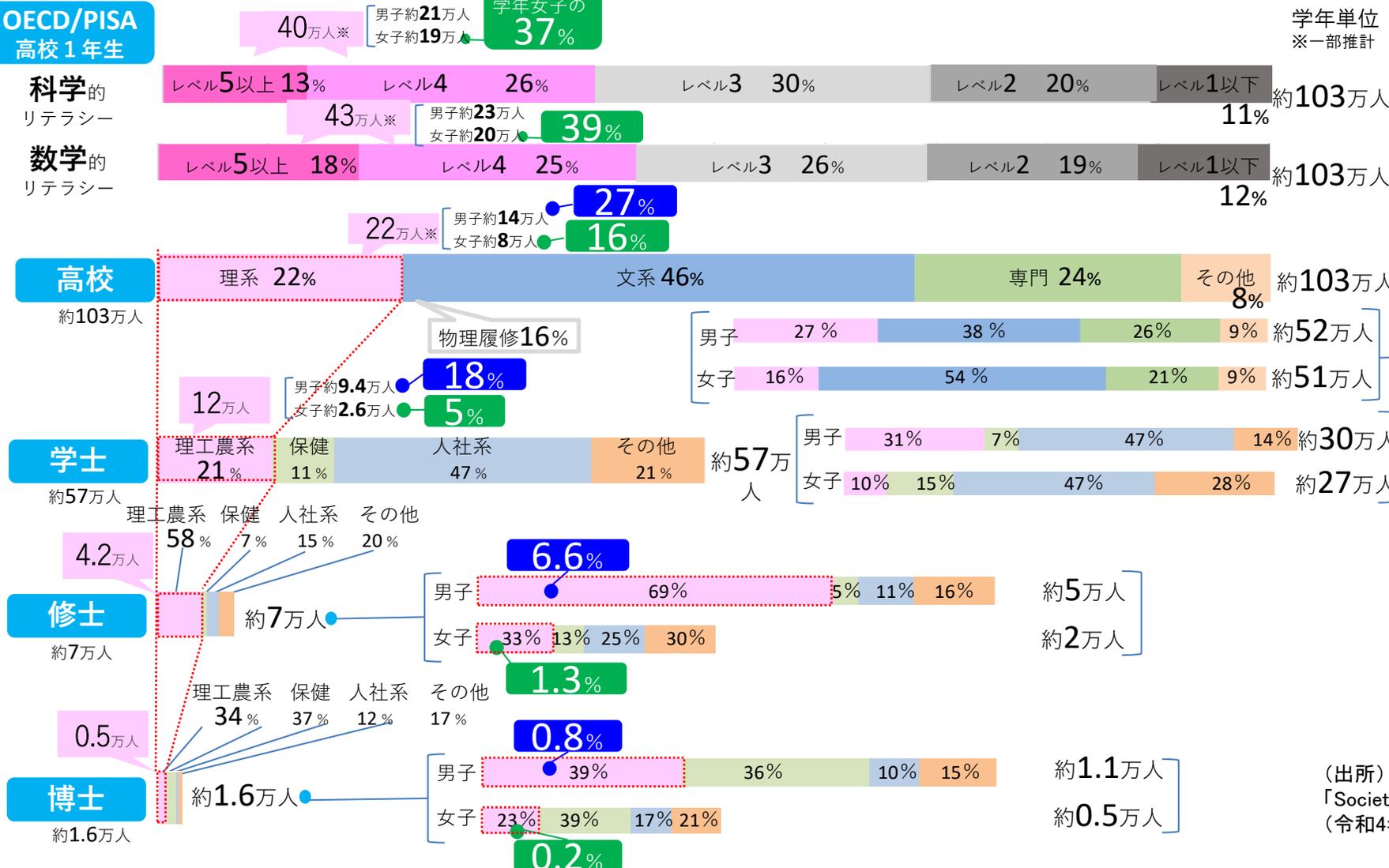
(備考) “Natural sciences, mathematics and statistics”, “Information and Communication Technologies”, “Engineering, manufacturing and construction”を「STEM」に分類される学部系統としてカウント。データは2019年時点

(出所) OECD.statsより作成。

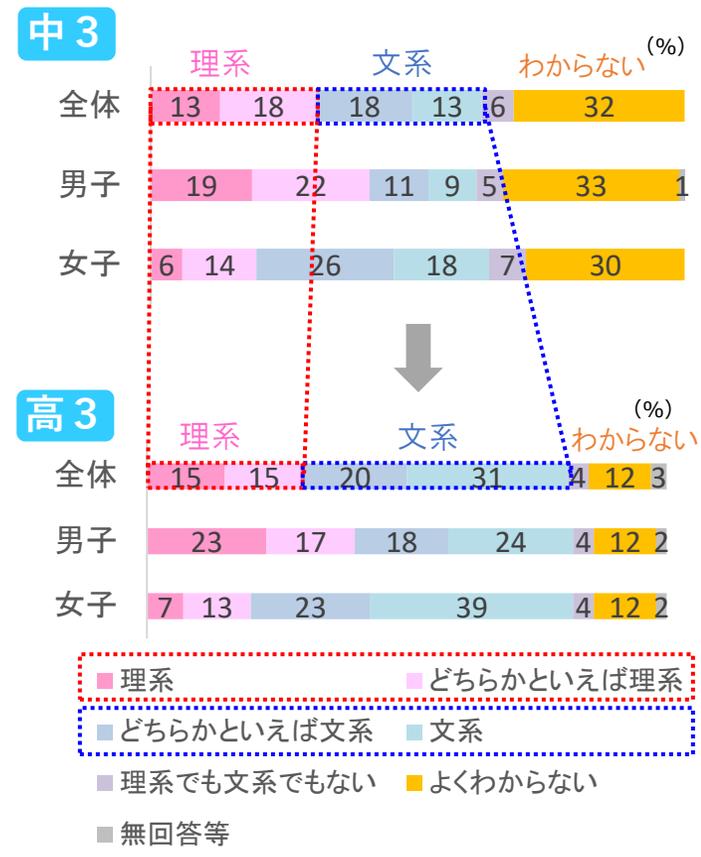
(出所) 令和3年度学校基本調査より作成

4. 高校以降の専攻分野の推移

- ・義務教育終了段階では約4割の女子が高い理数リテラシーを持つが、高校の文理選択で理系は2割弱に半減。
- ・大学入学時に理工農系入学者は約1割(同年代女子の5%)に半減し、大学院修士課程・博士課程でも先細っていく。



理系文系の「志向」の変化



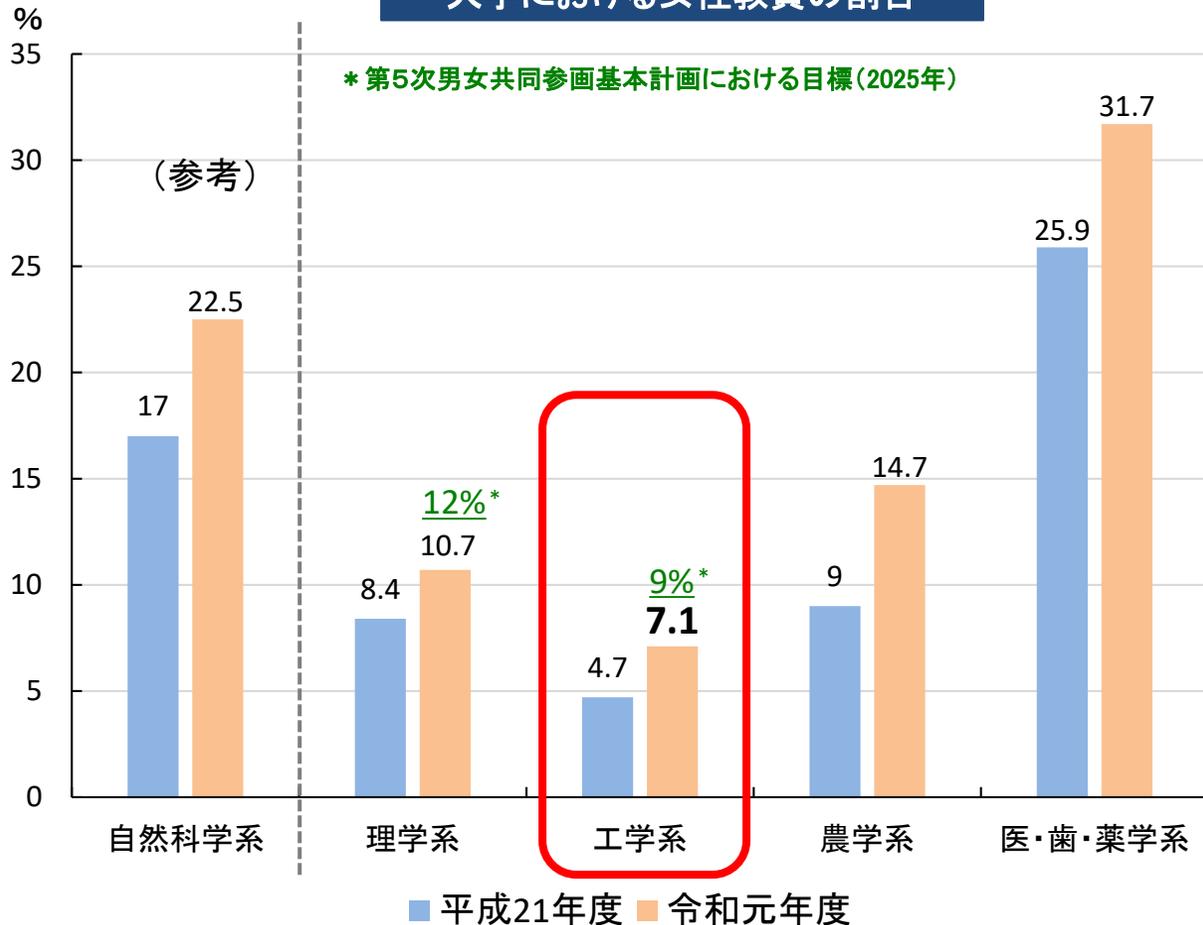
(出所)
 「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」
 (令和4年6月2日総合科学技術・イノベーション会議決定)より作成

5. 大学教員に占める女性の割合

・大学(自然科学系)の研究者に占める女性の割合は増加(17%→22.5%)しているが、工学系を中心に未だ低い水準。

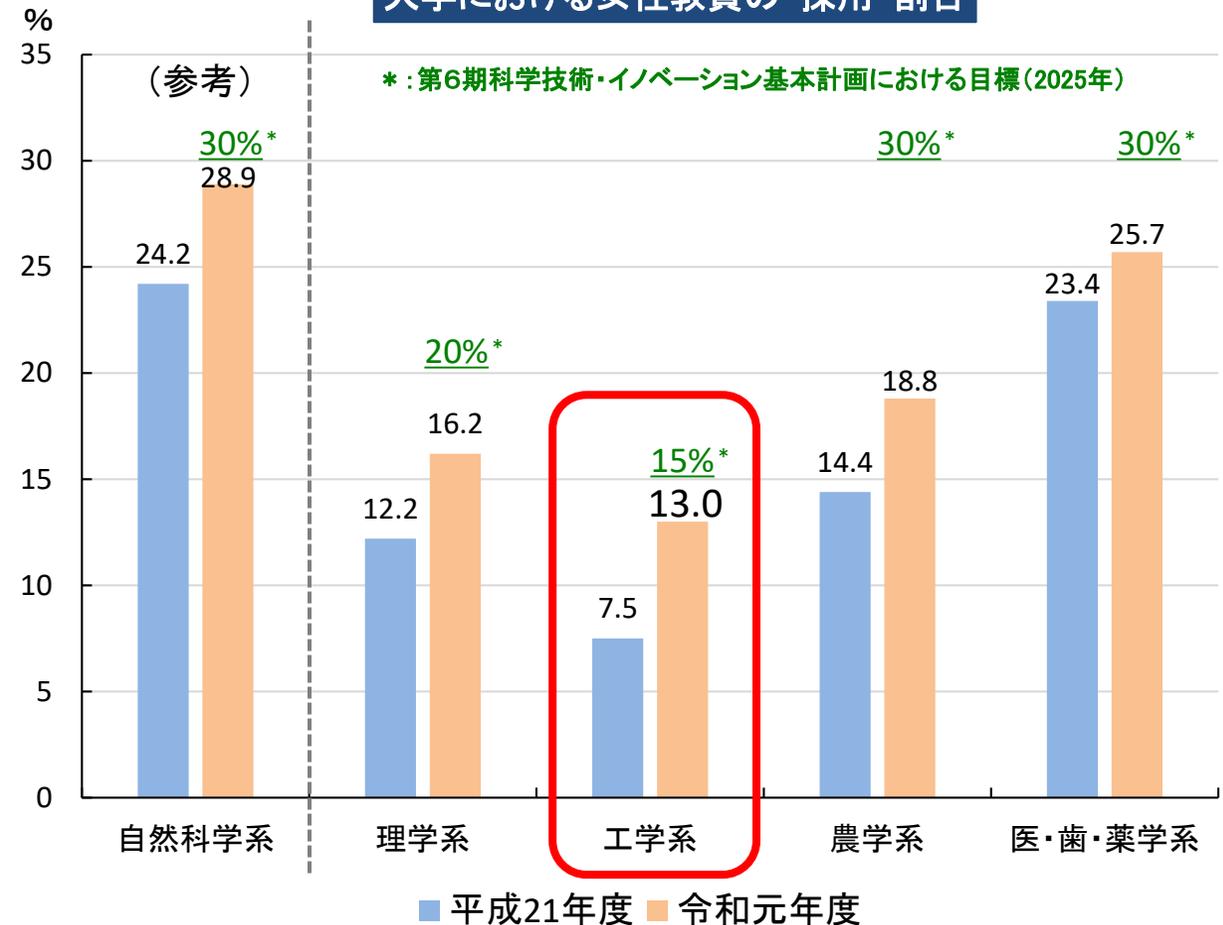
大学における女性教員の割合

* 第5次男女共同参画基本計画における目標(2025年)



大学における女性教員の‘採用’割合

* : 第6期科学技術・イノベーション基本計画における目標(2025年)



(出所) 文部科学省調べ

(注) 女性の教授、准教授、講師、助教の採用割合。
自然科学系は、理学、工学、農学、保健(医・歯・薬学系を含む)の合計。

(出所) 文部科学省調べ

(注) 女性の教授、准教授、講師、助教の採用割合。
自然科学系は、理学、工学、農学、保健(医・歯・薬学系を含む)の合計。

6. 女性研究者の割合

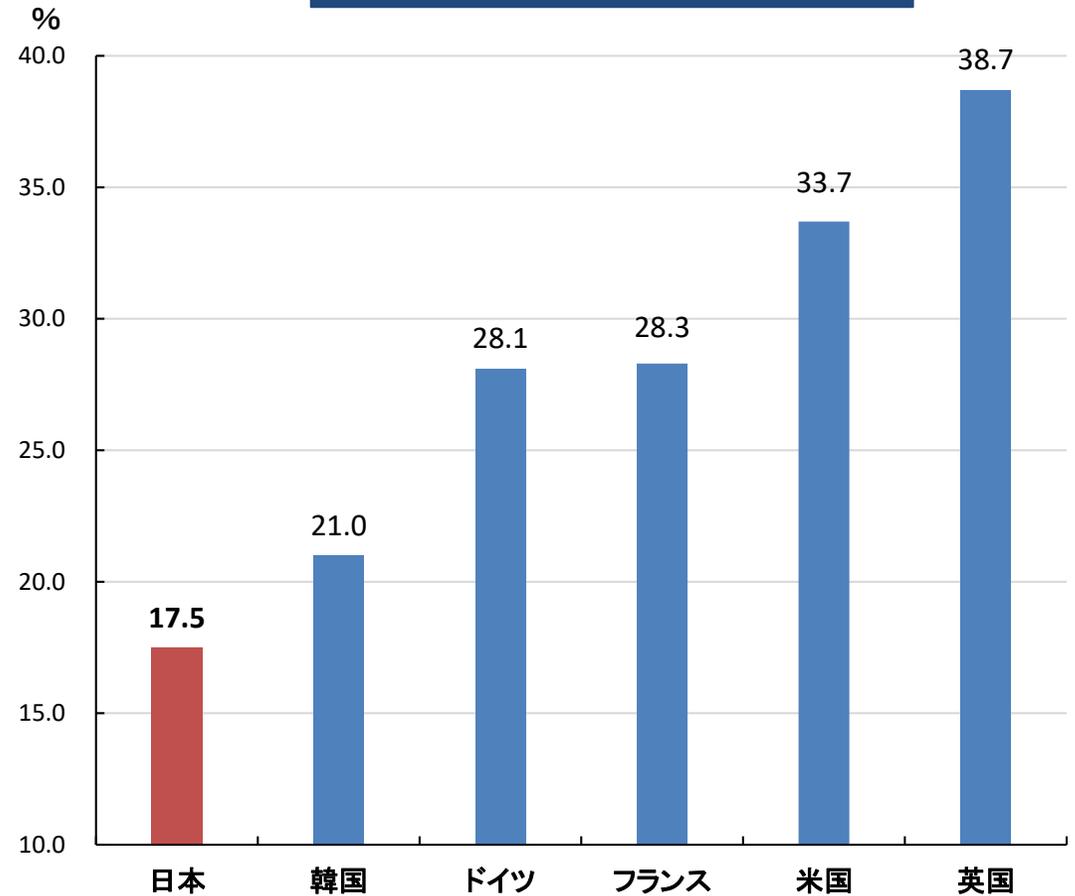
・研究者(企業・公的機関・大学)に占める女性の割合は20年間で1.6倍に増加しているが、諸外国と比較してなお低い水準。

女性研究者割合の推移



(出典)総務省「2021年(令和3年)科学技術研究調査」

女性研究者割合の国際比較



(出典)総務省「2021年(令和3年)科学技術研究調査」
 OECD“Main Science and Technology Indicators”
 NSF“Science and Engineering Indicators 2020”を基に文部科学省作成

まとめ

- ①小学校段階から理科好きには男女差があり、徐々に拡大
- ②義務教育終了段階では、女子の科学的リテラシーは高水準
- ③高校の文理選択では、男女問わず多くの生徒が文系を選択
- ④大学進学、大学院進学で理工系学生の男女比は3～5倍に

- 1 教育分野(特に理工系)における男女共同参画の現状
- 2 男女共同参画に関する政府の方針
- 3 文部科学省の取組
- 4 大学の取組例
- 5 まとめとお願い



1. 男女共同参画に関する政府の方針

○男女共同参画社会基本法(平成11年法律第78号)

- ・男女共同参画社会の形成に関する基本理念や国・地方公共団体・国民の責務を規定

➤ 男女共同参画基本計画

- ・5年毎に政策決定される中期計画。現在は2020年に閣議決定された第5次基本計画(2021～2025年度)期間。

(主な内容)

I あらゆる分野における女性の参画拡大

- 第1分野 政策・方針決定過程への女性の参画拡大
- 第2分野 雇用等における男女共同参画の推進と仕事と生活の調和
- 第3分野 地域における男女共同参画の推進
- 第4分野 科学技術・学術における男女共同参画の推進**

II 安全・安心な暮らしの実現

- 第5分野 女性に対するあらゆる暴力の根絶
- 第6分野 男女共同参画の視点に立った貧困等生活上の困難に対する支援と多様な性を尊重する環境の整備
- 第7分野 生涯を通じた健康支援
- 第8分野 防災・復興、環境問題における男女共同参画の推進

III 男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備

- 第9分野 男女共同参画の視点に立った各種制度等の整備
- 第10分野 教育・メディア等を通じた男女双方の意識改革、理解の促進**
- 第11分野 男女共同参画に関する国際的な協調及び貢献

IV 推進体制の整備・強化

➤ 女性活躍・男女共同参画の重点方針(女性版骨太の方針)

- ・重点的に取り組むべき事項(次年度の予算要求等)について、毎年定められる方針。

(主な内容)

I 女性の経済的自立

- (1)男女間賃金格差への対応 (2)地域におけるジェンダーギャップの解消
- (3)固定的な性別役割分担意識・無意識の思い込みの解消**
- (4)女性の視点も踏まえた社会保障制度・税制等の検討 (5)ひとり親支援
- (6)ジェンダー統計の充実に向けた男女別データの的確な把握

II 女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会の実現

- (1)アダルトビデオ出演被害対策等 (2)性犯罪・性暴力対策
- (3)配偶者等からの暴力への対策の強化
- (4)困難な問題を抱える女性への支援 (5)女性の健康
- (6)夫婦の氏に関する具体的な制度の在り方

III 男性の家庭・地域社会における活躍

- (1)男性の育児休業取得の推進及び働き方の改革
- (2)男性の育児参画を阻む壁の解消 (3)男性の孤独・孤立対策

IV 女性の登用目標達成(第5次男女共同参画基本計画の着実な実行)

- (1)政治分野 (2)行政分野 (3)経済分野 **(4)科学技術・学術分野**
- (5)地域における女性活躍の推進** (6)国際分野

2. 第五次男女共同参画基本計画（2021～2025年度）

第4分野 科学技術・学術における男女共同参画の推進

<基本認識>

- 理事長・学長・研究所所長等の経営層や現場のトップ等への女性登用推進に向けた積極的改善措置（ポジティブ・アクション）の取組支援が必要。
- 男女双方に対する、研究等と育児・介護等の両立支援等の環境整備は不可欠。

<成果目標> 工学系進路選択促進による、次代の女性科学技術人材の育成が重要。

項目	現状	成果目標
大学の理工系の教員（講師以上）に占める女性の割合	理学系：8.0% 工学系：4.9% (2016年)	理学系：12.0% 工学系：9.0% (2025年)
大学の研究者の採用に占める女性の割合	理学系：17.2% 工学系：11.0% 農学系：18.9% 医歯薬学系：25.3% 人文科学系：37.7% 社会科学系：25.8% (2018年)	理学系：20% 工学系：15% 農学系：30% 医歯薬学系：30% 人文科学系：45% 社会科学系：30% (2025年)
大学（学部）の理工系の学生に占める女性の割合	理学部：27.9% 工学部：15.4% (2019年)	前年度以上 (毎年度)

<施策の基本的方向性>

- ・ 科学技術・学術分野における女性の参画拡大
- ・ 男女共同参画と性差の視点を踏まえた研究の促進
- ・ 男女の研究者・技術者が共に働き続けやすい研究環境の整備
- ・ 女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成

第10分野 教育・メディア等を通じた意識改革、理解の促進

<基本認識>

- 固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見の解消、固定観念の打破とともに、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）による悪影響が生じないように、男女双方の意識改革と理解の促進を図る。
- 意識形成に大きな影響力をもつ学校教育分野における政策・方針決定過程への女性の参画を促進する。

<成果目標>

項目	現状	成果目標
初等中等教育機関の教頭以上に占める女性の割合		
副校長・教頭	20.5% (2019年)	25% (2025年)
校長	15.4% (2019年)	20% (2025年)
大学の教員に占める女性の割合		
准教授	25.1% (2019年)	27.5%（早期）、 更に30%を目指す (2025年)
教授等 (学長、副学長及び教授)	17.2% (2019年)	20%（早期）、 更に23%を目指す (2025年)

<施策の基本的方向性>

- ・ 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実
- ・ 学校教育の分野における政策・方針決定過程への女性の参画拡大

3. 女性活躍・男女共同参画の重点方針（女性版骨太の方針）2022

IV(4) 科学技術・学術分野

○理工系分野への進学を選択する女子学生への支援

- ・理工系や農学系の分野に進学する女子学生を対象とした官民共同の修学支援プログラムを創設。
- ・女子中高生の理系分野に対する興味・関心を喚起し、理系分野へ進むことを支援するための取組の好事例を普及。
- ・ライフイベントと研究との両立や女性研究者のリーダー育成を推進する大学等を支援し、女子中高生の理系進路選択を促すため、中・高等学校との連携を強化。

○大学入学者選抜における多様な入試方法の推進

- ・学生が学修の中で専攻分野を決定したり、複線的・多面的な学びを通じ、女子の理工系分野への進学者の増加を目指す。
- ・女子学生の占める割合の少ない分野の大学入学者選抜における女子学生枠の確保等に積極的に取り組む大学等に対する支援を強化。

○大学への資源配分におけるインセンティブの強化

- ・大学への資源配分において、学長、副学長及び教授における女性登用に対するインセンティブを引き続き付与。
- ・ライフイベントが女性研究者のキャリア形成に支障を来さないよう、産前産後休暇や育児休業の期間を配慮するよう促す。

○科学技術・学術分野における女性登用の促進

- ・大学や研究機関に対して、女性登用の目標及び具体的取組を定めるよう要請した結果を把握。

○女子中高生の理工系の学びや分野選択の促進

- ・保護者や学校、社会による「女子は理系に向いていない」等のジェンダーバイアス解消に向けて、政府・大学・産業界一体となってSNS等を通じて多角的に情報発信。
- ・大学・企業の双方からロールモデルを提示し、ロールモデルによる出前授業を実施すること等により、理系選択者の増加に向けた取組を行う。

IV(5) 地域における女性活躍の推進

③ 校長・教育委員会等における女性割合の向上

○校長等への女性の登用の促進

- ・教育委員会の管理職人事担当者等が参加する全国フォーラムを開催し、女性登用に関する好事例等を横展開。
- ・教育委員会における管理職選考試験について、出産・育児・介護等によるキャリアの中断が不利とならないよう、受験要件の必要な見直しを促しその結果を公表。

○教育委員会等における女性登用の推進

- ・女性教育委員がない都道府県及び市町村教育委員会が早期にゼロとなるよう、教育委員会に助言やフォローアップ。

I(3) 固定的な性別役割分担意識・無意識の思い込みの解消

- ・各都道府県教育委員会に対して、固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を払しょくするための研修実施を促す。
- ・独立行政法人国立女性教育会館において研修プログラム開発やその普及・展開を強化するとともに、独立行政法人教職員支援機構において研修動画教材をホームページ等に掲載することで、すべての教員が無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を解消するための研修受講を促す。
- ・学校教育において、例えば「女子は文系」というような固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消につながる教育を推進するための指導モデルの開発を行う。

まとめ

- ①研究の多様性向上の観点から、女性研究者の増加に向けた、
 - ・経営層への女性登用にむけたポジティブアクション
 - ・男女双方に対する研究環境整備
 - ・女子中高生の理工系選択の促進に取り組む。
- ②教師を含め、広く国民に対する固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の払拭や、
学校の管理職等に女性の割合を向上させる取組を実施。

- 1 教育分野(特に理工系)における男女共同参画の現状
- 2 男女共同参画に関する政府の方針
- 3 文部科学省の取組**
- 4 大学の取組例
- 5 まとめとお願い



1. アンコンシャス・バイアスの払拭

・学校の管理職の男女比や、教師の働き方や学校的意思決定の在り方が、子供たちの性別役割分担意識に影響を与えている可能性がある。

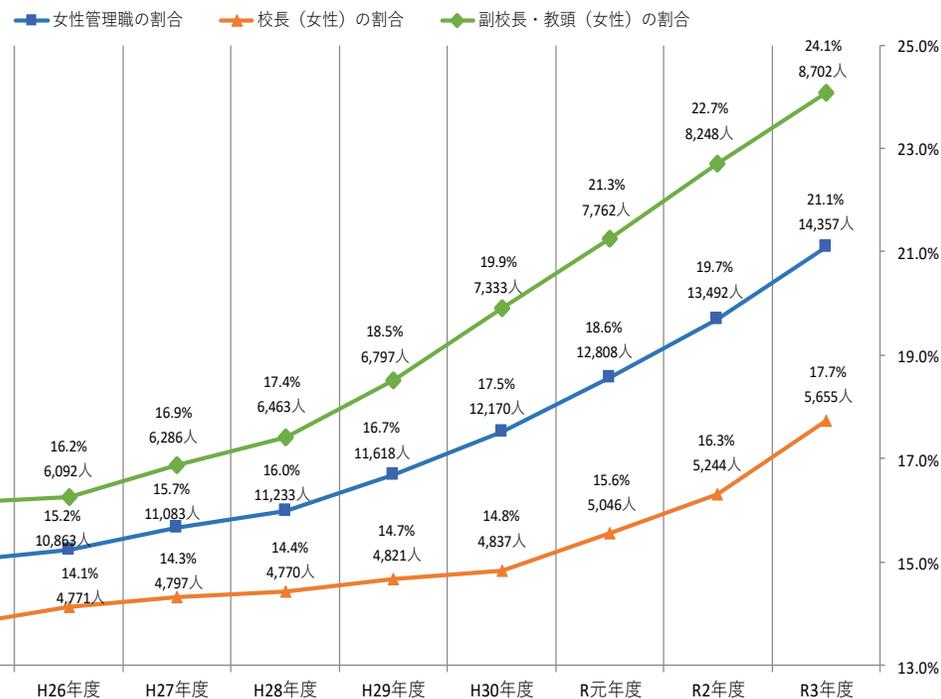
女性管理職教員の割合

	教員全体	副園長・副校長等	園長・校長
幼稚園	93.4%	83.3%	59.0%
小学校	62.4%	30.1%	23.4%
中学校	44.0%	16.4%	8.7%
高等学校	32.9%	12.0%	8.4%

小中学生の性別役割分担意識の例

女性の校長先生が少ないのはなぜか？

「おとこのほうがつよいから（小1）」
 「男の先生がしっかりしているから（小4）」
 「男性のほうがリーダーっぽくて、なんとなくよい（小5）」
 「学校は校長先生がせきにんをおうのがとうぜんだから、
 女の方はせきにんをおうのがいやだから（小4）」
 「女性がとちゅうで結婚や育児などを理由に仕事をやめてしまうから（中1）」
 「女の方は家の事でせいっぱいだから（小3）」



教師の働き方や意思決定のあり方が、子供たちの性別役割分担意識に影響を与える可能性

※ 2019年8月に国立女性教育会館が子供向け学習イベントにおいて実施したクイズ(小中学生約150名の回答からの抜粋)

2. 小中学生、保護者向けの教材、啓発資料の作成

・小・中学生を対象に、男女の尊重や自分を大事にすることの理解、固定的な性別役割分担意識解消の理解を深める教材及び指導の手引き等を作成

<小学生・中学生向け教材>

4種類の教材（小学生低学年・中学年・高学年、中学生向け）と教育プログラムを企画・実施するための「指導の手引き」を作成。指導に当たっては、児童生徒の状況等を踏まえ、各学校の判断によりアレンジ可能。

事前アンケート

クラスのみんなへのアンケート

これまでに、「女の子／男の子だから〇〇しないで、〇〇してはいけない」と言われたことはありますか？

あったとしたら、どんなことを言われましたか？

そのとき、どんな気持ちになりましたか？自由に書いて

らしさってなんだろう？

「男だから 〇〇しないで」「女だから 〇〇しないで」

と周りの人から言われたことはありませんか？

社会的・文化的につくられた「男らしさ」「女らしさ」

「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」という偏見や偏り

人それぞれの性に対する意識や行動の違い、個性や能力を認め合って、自分らしく生きることができる社会を目指すことが大切です。

2

小学校高学年向け教材（事前アンケート）

中学生向け教材

<保護者向け啓発資料>

男女共同参画の促進に向けてできること

男女共同参画社会は、一人一人の人格が尊重され、すべての人が自分らしく生きられる社会です。大人も子供も、一人一人が意識し行動することで、身近なところから男女共同参画を進めていくことが可能です。

自他を大切に、相手の気持ちや個性を尊重しましょう

性別に関係なく協力しましょう

- 男女共同参画に関する参考情報（例）
 - 内閣府「男女共同参画とは」 「男女共同参画白書」
https://www.gender.go.jp/about_danjo/index.html
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/index.html
 - 相談窓口等（例） ※受付時間はウェブサイト等をご確認ください。
 - 子どもの人権110番（子どもをめぐる人権問題に関する相談窓口。大人も利用可能）0120-007-110（無料）<https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken112.html>
 - 内閣府ウェブサイトの「男女共同参画関係機関、情報・相談窓口一覧」にも、行政や関係機関等の情報・相談窓口が掲載されています。こちらもご覧ください。
<https://www.gender.go.jp/research/joho/pdf/01-1.pdf>

ご家庭での取組のお願い

男女共同参画を進めるには、ご家庭など日常生活における意識や行動がとても大切です。まずは、学校でどのようなことを学んだかお子さんに聞いてみましょう。また、お子さんと一緒に、男女共同参画について話し合ってみましょう。

話し合いの例

ご家庭での役割はどのようになっていますか。（朝ごはんをつくる、晩ごはんをつくる、お皿を洗う、掃除、洗濯、ゴミを出す など）

日常生活の中で、性別を理由にやりたいことができなかつたり、男女共同参画が進んでいないと思ったことはありますか。どのような状況で、どのようなことを思ったか、具体的に話してみてください。

あなたや周りの人が、性別にかかわらず興味のあることや得意なことに挑戦できるようにするには、どのような考え方や行動が必要だと思いますか。また、あなたには何ができると思いますか。

体験型学習もしてみましょう

メモ ご家庭での話し合いの際に、ご自由にお使いください

お子さんに料理や洗濯、掃除等の家事をもらい、気づいたことや感想を聞いてみましょう。

※ お子さんの話や考えをしっかりと受け止めて、お子さんと様々な意見を交わしてみてください。
※ 本教育について、ご不明な点や、お子さんの様子で気になること等がありましたら、担任等にご相談ください。

4

学校の日常？



「男子も手伝って。男子も一人暮らしすることだってあるんだから。」



「理数系の教科は男子のほうが得意」
「女子は理数系が苦手」



親は、「文系」、「家から通える大学」、「浪人はダメ」と言っている。

親は、「浪人してもいいから理工系にいった方がいい」と言っている。



育児休業取得者の97%が女性教員

3. 学校における男女共同参画のための教員研修

・女性管理職登用を進めるとともに、
教師自身が性に関する「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)」に気付くための研修プログラムを開発、実施

主な対象	ケース(場面)			
小学校教員 【初期・中堅】	ケース1 教室の日常 (家庭科・掃除) 	ケース2 学校行事(卒業式) 	ケース3 小学校での キャリア教育 	ケース4 ワーク・ライフ・ バランス 
中学校・高校教員 【初期・中堅】	ケース5 教室の日常 (理科の実験) 	ケース6 学校行事(体育祭) 	ケース7 大学の 専攻分野の選択 	
管理職/管理職候補 教育委員会教職員 【管理職・ミドルリーダー】	ケース8 教員の日常 (校務分掌) 	ケース9 教員の日常 (校長会議) 	ケース10 ミドルリーダー への声かけ 	ケース11 男性教員の 育休取得 

<研修の組立て(例)>

1. ケース動画を用いた
ワーク(アンコンシャ
ス・バイアスへの気づき)



2. 男女共同参画に関わる
社会の現状・課題につい
ての講義



3. 教育委員会の男女共同
参画推進の取組について
の情報提供



4. まとめのディスカッショ
ン(グループ→全体)アンケート

4. 女子生徒等に対する理工系進学支援

- ・女子中高生の理系分野に対する興味・関心を喚起し、理系分野へ進むことを支援するため、
 - ① 科学技術分野で活躍する女性研究者・技術者、大学生などと女子中高生との交流機会の提供、
 - ② シンポジウムや出前授業、③ 地域や企業等と連携した取組などを実施する大学等を支援

女子中高生の理系進路選択支援(科学技術振興機構事業)

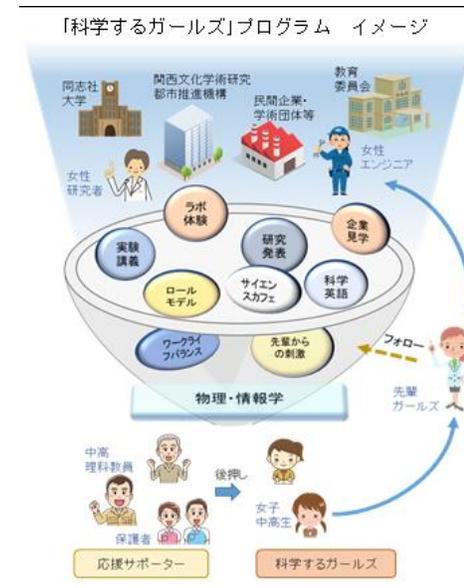


旭川高専など
＜高専を卒業した女性たちからのメッセージ＞



滋賀県立大学イベント

＜複数のチームに分かれて 工学部を探索しながら隠された謎を解き明かしてひこにゃんを探そう！＞



同志社大学

＜女子限定のサイエンスキャンプ、出前講義、ラボ体験等通して、女性研究者・エンジニアと交流＞

＜取組の主な成果＞

「文理選択を迷っている」参加生徒のアンケート回答結果 (R2・全実施機関総計)

科学技術や理科・数学に対する興味・関心が高まった	82%
科学技術や理科・数学に対する学習意欲が高まった	77%
理科や数学を勉強することは、自分の将来のために重要だと思うようになった	90%
今後、理系の進路を前向きに選択しようと思うようになった	70%
将来、科学技術を必要とする職業に就きたいと思うようになった	55%

左表集計対象：
実施機関の取組に参加した生徒のうち、「文理選択を迷っている」と回答した853名（全アンケート回答者は3,726名）

5. 大学の入学者選抜における取組の要請

・各大学に、多様な背景を持った者を対象とする選抜を令和5年度入学者選抜から要請

■背景

- 形式的公平性の確保とともに、多様な背景を持つ学生の受入れへの配慮など**実質的公平性の追求が重要**
- また、多様な価値観が集まり新たな価値を創造するキャンパスを実現する観点から、各大学の創意工夫の一方策として、アドミッション・ポリシーに基づき、各大学が**キャンパスに多様性をもたらすことができる**と考える者を対象とする選抜を実施することも有効
- **そうした選抜が実施できることを明確にするため**、入学者選抜の基本方針である実施要項の入試方法に「**多様な背景を持った者を対象とする選抜**」を追加

■令和5年度大学入学者選抜実施要項（令和4年6月3日付文部科学省高等教育局長通知）（抄）

※令和7年度実施要項の予告として通知していたものを令和5年度実施要項から前倒して反映

第3 入試方法

1 (略)

2 一般選抜のほか、各大学の判断により、入学定員の一部について、以下のような**多様な入試方法を工夫することが望ましい**。

(1)～(4) (略)

(5) **多様な背景を持った者を対象とする選抜**

家庭環境、居住地域、国籍、性別等の要因により進学機会の確保に困難があると認められる者その他各大学において**入学者の多様性を確保する観点から対象になると考える者（例えば、理工系分野における女子等）**を対象として、**入学志願者の努力のプロセス、意欲、目的意識等を重視し、評価・判定する入試方法**。

この方法による場合は、こうした**選抜の趣旨や方法について社会に対し合理的な説明**を行うことや、入学志願者の大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を適切に評価することに留意すること。

■試験期日等

- 選抜期日等については、具体的な選抜方法に応じて、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜と同様の選抜期日で実施するよう依頼。

6. 理工系女性研究者への支援

- ・研究と出産、育児等のライフイベントとの両立や女性の上位職登用推進に向けた取組等を支援
- ・出産、育児により研究を中断した研究者の円滑な研究復帰を支援

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

～研究と出産・育児等のライフイベントとの両立や女性研究者の研究力向上を通じたリーダーの育成を一体的に推進するダイバーシティ実現に向けた大学等の取組を支援～
(令和5年度新規採択件数8件程度、既存採択11件も継続実施)

奈良女子大学

○教育研究支援員制度、地域・学生との共助による子育て支援システムの構築等により、研究活動とライフイベントとの両立を図る。

- 支援者、被支援者双方のキャリア形成、キャリア復帰等に寄与。
- 地域住民・学生がサポーターとなる共助システムを構築し子育て支援。
- ライフイベントからの復帰者を対象とした復職支援。

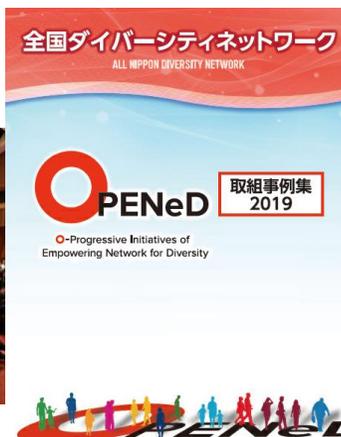


地域住民等がサポートする託児ルームの様子

宇都宮大学

○女性教員の上位職への登用促進と女性リーダー育成に向けたセミナーを実施。

- 女性教員海外派遣制度を利用した7名の女性研究者のうち2名が教授に昇進し、教授職における女性教員比率が17.3(対前年比+1.2%)に上昇。
- 教員の公募要領において、女性の若手教員採用の促進につながる要件を記載。



特別研究員(RPD)

～出産・育児により研究を中断した研究者が円滑に研究に復帰できるよう、(独)日本学術振興会が特別研究員-RPDとして採用し、国内の大学等の研究機関において一定期間、研究に専念できるよう支援～
(令和5年度支援予定人数214人)

対象分野	人文学、社会科学及び自然科学の全分野
対象者	出産・育児のために、通算3ヶ月以上研究活動を中断した者
支給金額	研究奨励金362,000円/月+研究費:150万円以内/年
採用期間	3年間

全国ダイバーシティネットワーク(大阪大学が統括)

○女性研究者を取り巻く研究環境整備や研究力向上に取組む諸機関をつなぐ「全国ダイバーシティネットワーク」を構築し、国内外の取組動向の調査やその経験、知見を全国的に普及・展開(185機関が参加)

- シンポジウムの開催や、[取組事例集](#)を発行

事例 RPDを活用して研究を再開する



- 1 教育分野(特に理工系)における男女共同参画の現状
- 2 男女共同参画に関する政府の方針
- 3 文部科学省の取組
- 4 大学の取組例**
- 5 まとめとお願い



1. 理工系女子学生への支援の例

・各大学において、理工系の女子を対象とする大学入学者選抜の実施や、理工系女子への経済的な支援等を実施。

理工系の女子を対象とする入学者選抜の例

	大学名	学部	学科	定員	選抜方法
国立	富山大学	工学部	・工学科(電気電子工学コース、 ・知能情報工学コース、機械工学コース)	8名	・推薦書、調査書、志願理由書 ・小論文 ・面接(基礎学力に関する試験を含む)
	名古屋大学	工学部	・電気電子情報工学科 ・エネルギー理工学科	9名	・志願理由書、推薦書及び調査書並びに大学入学共通テストの成績 ・口頭試験による面接
	名古屋工業大学	工学部第一部	高度工学教育課程 電気・機械工学科	15名	・書類選考 ・筆記試験(数学・物理) ・面接
	島根大学	材料エネルギー学部	材料エネルギー学科	6名	・推薦書、調査書、志望理由書 ・面接 ・大学入学共通テスト(基礎的な学習の達成の程度をみるもの)
公立	兵庫県立大学	工学部	・電気電子情報工学科 ・機械・材料工学科 ・応用化学工学科	各学科 5名	・書類審査 ・小論文 ・面接 ・適性審査(数学・物理・化学の基礎的素養)
私立	名古屋工業大学	工学部、経営学部、情報科学部の全学科		37名	・書類審査 ・小論文 ・面接(口頭試験を含む)
	芝浦工業大学	工学部、システム理工学部、デザイン工学部、建築学部の全学科		64名	・書類審査 ・面接 ・筆記試験(数学、理科(物理または化学))
	大同大学	工学部、情報学部の全学科		33名	・調査書、活動報告書、推薦理由書 ・小論文 ・面接

大阪大学 入学支援金制度

理学部、工学部、基礎工学部の入学試験に優秀な成績で合格して入学する女子学生50名に対して、1名あたり20万円の入学支援金を支給。入学支援金の使途に制限は設けず、理工系学部への進学や学びに幅広く活用が可能。

芝浦工業大学 入学金相当の奨学金給付

100人を超える入試での成績優秀な女子入学者へ、入学金相当(28万円)を奨学金として給付。現在の学部女子学生比率18.7%から、2027年の設立100周年には30%以上へ引き上げることを目標として取り組む。

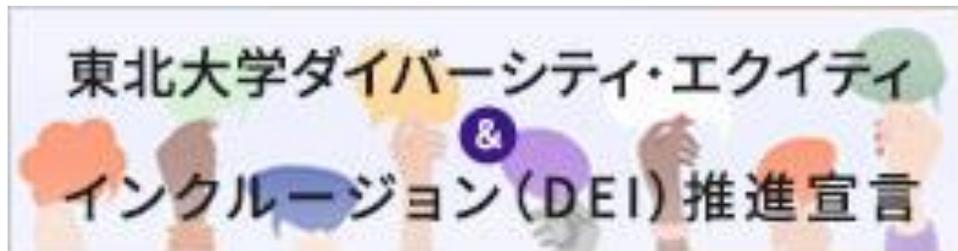
奈良女子大学 工学部設置

女子大学で初の工学部を新設(入学定員45名、3年次編入学定員10名)。小規模な学部という利点を生かし、学生の課題意識に合わせたオーダーメイド型のきめ細かい教育指導。

2. 理工系女性研究者支援の例

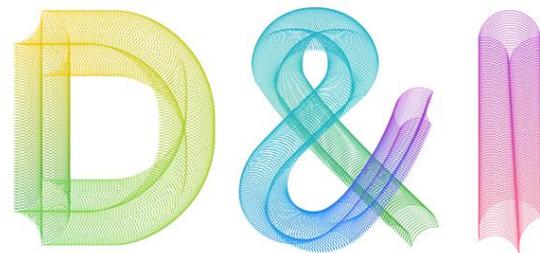
・各大学において、理工系の女性研究者採用のための積極的改善措置(ポジティブアクション)が加速。

東北大学工学 DEI推進プロジェクト



-第一弾として大学院工学研究科で
教授職の女性教員5名公募や帯同支援策を実施-
(2022年4月6日)

東京大学 UTokyo 男女+協働改革 #WeChange



UTokyo
Diversity&Inclusion

6年間で女性教授・准教授 300名採用(2022年11月18日)

東京工業大学 ダイバーシティ&インクルージョン



8部局で女性教員の公募を開始(2022年7月25日)
総合型・学校推薦型選抜で143人の「女子枠」を導入(2022年11月10日)

- 1 教育分野(特に理工系)における男女共同参画の現状
- 2 男女共同参画に関する政府の方針
- 3 文部科学省の取組
- 4 大学の取組例
- 5 まとめとお願い



まとめ

- ①男女間の差の多くは、能力の差ではなく、意識と環境の差。
- ②社会の意識や環境を変えるためには、
社会全体の積極的な行動が必要。
- ③政府や大学等で、
男女共同参画社会実現に向けた様々な取組が加速。

お願い

- ④男性研究者と同じようにはなく、自分らしく活躍して欲しい。
- ⑤子供達(男女問わず)に物理学の楽しさを伝えて欲しい。